

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320066

研究課題名(和文)マザリナード文書の電子化：次世代型コーパスの構築と新しい研究環境に関する総合研究

研究課題名(英文)Digitalization of the Mazarinades Collection : Construction of a new generation Corpus and a new research Environment.

研究代表者

Patrick Reboilar (Reboilar, Patrick)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：50329744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円、(間接経費) 3,720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は東京大学総合図書館所蔵コレクション『マザリナード集成』約2700点を完全デジタル化し、世界に先駆けマザリナード文書のオンライン・デジタルコーパスとしてインターネット上に公開した。これにより世界的にも貴重な原資料の保護と継承のみならず、新たな学術研究の可能性を開くことに貢献した。

本研究により実現したコーパスの特徴は従来型データ・ベースと異なり、研究者によって絶えず更新され、最新の知識が一般にも共有されることである。日本が発信したこの新しい知の共有・集積方法(マザリナード・プロジェクト)は最も先端的かつ学際的な「マザリナード文書の研究用プラットフォーム」として国際的に機能し始めている。

研究成果の概要(英文)：Our research team has completed the whole digitalization of the Mazarinades Collection of the Tokyo University Library (about 2700 pamphlets) and published on the Internet for the first time all the texts and images in an online dynamic corpus. By doing this, we have contributed to the protection, preservation and dissemination of these precious documents of the World Heritage. Moreover, we propose a new method in this research field.

This web corpus, unlike previous corpora, is installed in a platform in which we can publish and make changes to broadcast instantly the most recent state of each document. Our Mazarinades Project gathers, shares and spreads from Japan this unique collection for specialized and interdisciplinary studies.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学(英文学をのぞく)・仏文学

キーワード：マザリナード コーパス 17世紀仏文学 フロンド 語彙論 古文書 国際情報交流 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

(1) 東京大学総合図書館所蔵コレクション『マザリナード集成』は、すでに「マザリナード文書とは何か コーパスとしての東京大学コレクション」(一丸禎子博士学位取得論文・2006年・東京大学)によって基本的な文献調査を完了し、次に2008年度採択課題「マザリナード文書の電子化」(課題番号20903010 研究代表者一丸禎子)によって、上記論文中に予告された全文書のデジタル化および総目録化の構想(マザリナード・プロジェクト)にしたがい、その第一段階としてマイクロフィルムから起こした全文書のデジタル画像切り出し作業を完了していた。プロジェクトは次の段階として、画像からテキストデータへの変換、検索機能をそなえた電子コーパスの構築にむけて準備を進めるにあたり、それにかかわる複数の専門分野からなる研究グループを組織する必要があった。

(2) 本研究で扱う「マザリナード文書」とは17世紀フランスで絶対王権確立前夜に起きたフロンドの乱のさなかに出版されたおよそ5000種類の文書を指し、18世紀のフランス革命に先立つ萌芽的マスメディアの状況と政治・文芸・世論の関わりを示す貴重な資料である。この資料の特徴はそこに見出されるテキストの多様性とともな圧倒的な量にあり、世界中にコレクションとして散っていることだ。マザリナード文書研究は潜在的に豊かな学際的研究の成果を期待できる領域であると考えられていたが、その量の問題ゆえに未開拓でもあった。しかし、昨今のIT技術の進化はこれまで先人には乗り越えることのできなかつたその問題を解決する可能性を開いた。未だかつて誰も着手しなかつたがゆえに、上記(1)に述べた「マザリナード・プロジェクト」が実現すれば、世界に先駆けて「日本による新研究領域の開拓」につながり、大きな成果が期待できる状況にあった。

2. 研究の目的

(1) 世界に先駆けて、東京大学所蔵『マザリナード集成』(約2700点、44巻)を完全デジタル化しインターネット上で公開する。それによって、世界的にも貴重な古文書の保護と継承に貢献する。

(2) 同コレクションを核とするマザリナード文書研究用プラットフォームをWeb上に構築し、新しい知の共有・集積方法、新研究領域の開拓、学際的研究の可能性を日本から発信する。

(3) 新しい研究方法と環境に生じうる問題(所有権、翻刻権、知的財産等の保護、盗用の防止等)を解決する。

(4) 最新の知を国民と教育現場へ還元する。

3. 研究の方法

(1) 一丸論文「マザリナード文書とは何か コーパスとしての東京大学コレクション」で提示された総目録化の構想にしたがい、東京大学コレクション『マザリナード集成』のデジタル化を進め公開する。

(2) 画像ファイルから、テキストデータを作成し、語彙検索の可能な電子コーパスとして構築する。

(3) しかしながら、言語コーパスの枠を超え、Web上に開かれた研究者用作業場として機能するように、文献情報、研究者による学術的校訂版、注釈等を表示できるように、別途、研究用プラットフォームをデザインし、必要なプログラムを考案する。

(4) インターネット上で公開するにあたって注意すべきことを、『マザリナード集成』の所有者である東京大学総合図書館と協議し、他の古文書のデジタル化および公開と比較し、知的財産の専門家等の意見をきいて対策を考察し、問題を解決する。

(5) 500点以上のコレクションを所蔵する図書館を訪問し、デジタル化の現状を調査し今後の協力体制を協議する。一方、大学間のネットワークにより、マザリナード研究の国際的研究を組織化する。

(6) フランスの大学における公開セミナーなどを積極的に活用し本研究が日本から発信されていることを紹介する。

(7) 大学の授業を通じて、人文研究の新しいモデルとして演習を行い、本研究の成果を教育現場に還元する。

4. 研究成果

(1) 基盤となる電子コーパスが当初の予定より早く2010年に完成したので、2011年3月から東京大学総合図書館蔵コレクション『マザリナード集成』全44巻はインターネット上で閲覧可能になった。

これは直接原本に触れる回数が減るだけでなく、世界のどこにいても閲覧が可能となるため、貴重書の保護と継承のみならず、すべての研究者にとって閲覧の利便性が飛躍的に高まったということである。

この電子コーパスには一般の人が誰でも閲覧できる部分と、登録した研究者がログインして閲覧・校訂・編集の作業する部分(研究用プラットフォーム)とに分けられている。研究者は記名式で成果をそこに残すことができる。登録と記名によって、研究者は自らの研究成果を知的財産として保護し、無断複製や盗用を防止できる。この研究の透明性を担保するため倫理基準も明記した。

電子コーパス部分 www.mazarinades.org/ とは別に、「マザリナード国際研究サイト」www.mazarinades.net/blog/ に本研究の経過を記録し、採択課題の公共性を高めた。

(2) 一般の使用に供する言語コーパス機能

としては、単語のみならず、同単語の異なる綴り(17世紀には綴りがいくつもある場合があった)、複数単語の組み合わせ等、複雑な語彙検索にも対応できるプログラムをつくり、結果を前後数行のテキストのみならずページ全体で表示できるようにした。

(3) 研究者のための作業場となるプラットフォームに関しては、次のような開発をおこなった。

言語コーパスの語彙検索は、インデックスとしても機能する。印刷出版される目録では別途巻末にインデックスをつける必要があるが、ここでは語彙検索機能によって置き換えられる。

マザリナード文書は「出版物」でもあるので、図書館の蔵書と同様に書誌情報をデータベース化する必要がある。これは手入力に頼らなければならなかったが、現在80%まで入力済みである。書誌情報はそれぞれの文書ごとに総合的に表示されるが、各項目(著者、印刷業者、出版地、出版年等)はそれぞれ独立したデータベースとして保存されているので、並び替え、特定の項目のみを抜き出すことも可能である。

マザリナード文書には19世紀半ばに出版されたセレストアン・モローによる『マザリナード書誌』の分類番号(4607までと補遺の番号)があり、網羅的ではないにしても、特定の文書を示す際の標準となっている。この番号を東京大学コレクション内の文書にも振り当て、「モローのカタログ番号」による検索も可能にした。モローの書誌に載っていない文書には新たにそれを示す分類番号を振り当てた。

17世紀のフランス語テキストをさらに現代フランス語に自動翻訳するプログラムを開発し、研究者としてログインすれば、原本画像、17世紀テキスト、現代語訳の3種類を同時に並べて見ることが可能になった。現代語訳テキストの校訂は担当した研究者が記名することによって完成する。(この機能を一般に公開しないのは未校訂のテキストが専門家以外の手に流通するのを防ぐためである。)

ログインした研究者は校訂ならびに、注釈を加えることが可能である。注釈や解釈は名前を明記して表示される。知の共有と集積の透明性と著者の権利を担保するためである。(4) 公開にあたって、東京大学総合図書館との協議により、以下の点を確認し、問題を解決した。

古文書のデジタル化とWeb公開には研究上大きな利点があることに異論の余地はない。しかし未知の領域であるだけに解決すべき問題も多い。所有権、翻刻権、写真の使用、公開の方法、データの管理等である。

それらの問題の対応には長期的な展望のもとに合意をつくっていくことが肝心である。本研究のように、できれば法律の専門家を交え、覚書を交わすなど、その都度両者が

納得のいく形で進行することがのぞましい。逆説的ではあるが、電子メールやskype等の遠隔通信手段に頼るのではなく、直接面談することが、多くの場合有効であるということも確かめられた。これは以下に述べる、海外の図書館や大学とのネットワークづくりにおいても重要であることが確認された。

(5) 500点を超すコレクションを所蔵する図書館を訪問し、将来的にそれぞれのコレクションがデジタル化された時点で、本研究のサイトをポータルとしてリンクしていく計画に着手できた。特にフランス国立図書館(BNF)、世界で最も大きなコレクションをもつ仏国立マザリーヌ図書館とは連携を確立し、2015年6月に共同で国際シンポジウム「MAZARINADES: NOUVELLES APPROCHES」を開催することが決まった。2014年1月に公募エントリーを開始し、5月末の締切時点で40人の応募があったことは、本研究の目的とする新研究領域の開拓が成功したことを示すものである。発表の中にはすでに本研究の電子コーパスを利用したものも含まれる。国際的かつ学際的な新し研究者コミュニティが生まれつつあり、日本はそれをリードするという特権的地位を占めることになった。

(6) 本研究が日本から発信されていることを明示するため、パリ第III大学、ポルドー・モンテーニュ大学等で招待セミナー、国際シンポジウムでの発表を行った。特にパリ第III大学博士課程での公開セミナーはインターネット配信され、より広く知られることに役立った。

(7) 国内においては、明治学院大学仏文科の「古典期フランス文学」「17・18世紀フランス文学」の授業で、本研究の電子コーパスを使ったマザリナード文書の授業を行い、学習院大学フランス語圏文化学科の有志も加わって日本語翻訳を行った。これらの成果が研究ブログ内で発表されることにより、さらに学習へのモチベーションを高める効果があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

一丸禎子、「マザリナード文書のWeb公開に先立って その特性と東京大学コレクションの紹介」、『人文』9号、p.97-117、2010年、査読有

[学会発表](計 8件)

パトリック・レボラル、一丸禎子「21世紀のマザリナード研究：オンライン・コーパスと研究者コミュニティ」、パリ第III大学博士課程公開セミナー招聘講演、2014年3月11日、パリ(フランス共和国)

パトリック・レボラル、「Bordeaux dans les Mazarinades en ligne」、ポルドー・モ

ンターニュ大学国際シンポジウム招聘講演、2013年5月11日、ボルドー（フランス共和国）

パトリック・レボラル、一丸禎子「Le littéraire, du papier au numérique」、パリ第III大学博士課程公開セミナー招聘講演、2013年3月26日、パリ（フランス共和国）

一丸禎子「Le Projet Mazarinades et la Collection de l' Université de Tokyo」、ボルドー・モンターニュ大学大学院セミナー招聘講演、2013年3月13日、ボルドー（フランス共和国）

パトリック・レボラル「Le mot "bordeaux" dans les Mazarinades」、ボルドー・モンターニュ大学大学院セミナー招聘講演、2013年3月13日、ボルドー（フランス共和国）

パトリック・レボラル、一丸禎子「Le littéraire, du papier au numérique」、パリ第III大学博士課程公開セミナー招聘講演、2012年2月21日、3月6日、パリ（フランス共和国）

パトリック・レボラル、一丸禎子「Mazarinades」、パリ第III大学博士課程公開セミナー招聘講演、2011年1月4日、パリ（フランス共和国）

パトリック・レボラル、一丸禎子「マザリナード・プロジェクト：古文書研究のための新しい地平線」日本フランス語フランス文学会、2010年10月17日、南山大学（愛知県）

〔図書〕（計 1件）

レボラル・パトリック、「Bordeaux dans les Mazarinades en ligne」、ボルドー・モンターニュ大学国際シンポジウム論文集『Mazarinades et pamphlets』、2014年（印刷中）

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
マザリナード文書オンライン・デジタル・コース

<http://www.mazarinades.org/>

マザリナード国際研究サイト

<http://www.mazarinades.net/blog>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

パトリック・レボラル
(Patrick REBOLLAR)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：50329744

(2) 研究分担者

松村 剛 (MATSUMURA, Takeshi)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号：00229535

丸岡 高弘 (MARUOKA, Takahiro)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：50199923

真野 倫平 (MANO, Rinpei)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：30257232

ダヴィッド・クーロン
(David COURRON)
南山大学・外国語学部・准教授
研究者番号：20308927

モルヴァン・ペロンセル
(Morvan PERRONCEL)
中京大学・国際教養学部・准教授
研究者番号：90339630

一丸 禎子 (ICHIMARU, Tadako)
学習院大学・外国語教育研究センター・講師
研究者番号：80567313

(3) 連携研究者

()

研究者番号：